

数 学

注 意

- 1 問題は **1** から **4** までで、7 ページにわたって印刷してあります。
また、解答用紙は両面に印刷してあります。
- 2 検査時間は 50 分で、終わりは午前 11 時 10 分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 解答は全て解答用紙に HB 又は B の鉛筆 (シャープペンシルも可) を使って
明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えに根号が含まれるときは、根号を付けたまま、分母に根号を含まない
形で表しなさい。また、根号の中を最も小さい自然数にしなさい。
- 6 答えは、解答用紙の決められた欄からはみ出さないように書きなさい。
- 7 解答を直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、
新しい答えを書きなさい。
- 8 受検番号を解答用紙の表面と裏面の決められた欄に書き、表面については、
その数字の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 9 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

1 次の各問に答えよ。

〔問1〕 $\left(\frac{\sqrt{5}+\sqrt{3}}{\sqrt{2}}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{5}+\sqrt{3}}{\sqrt{2}}\right)\left(\frac{\sqrt{5}-\sqrt{3}}{\sqrt{2}}\right) - \left(\frac{\sqrt{5}-\sqrt{3}}{\sqrt{2}}\right)^2$ を計算せよ。

〔問2〕 連立方程式
$$\begin{cases} \frac{1}{2}x - \frac{1}{4}y = -\frac{1}{3} \\ 2x + 6y = 1 \end{cases}$$
 を解け。

〔問3〕 2次方程式 $(2x-1)^2 - 6 = 5(2x-1)$ を解け。

〔問4〕 箱の中に1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8の数字を1つずつ書いた8枚のカード①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧が入っている。

箱の中から1枚のカードを取り出し、取り出したカードを箱に戻すという操作を2回繰り返す。1回目に取り出したカードに書かれた数を a 、2回目に取り出したカードに書かれた数を b とするとき、2桁の自然数 $10a+b$ が3の倍数となる確率を求めよ。

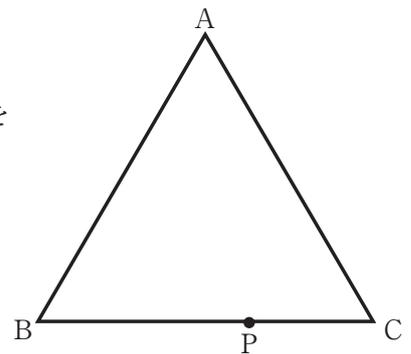
ただし、どのカードが取り出されることも同様に確からしいものとする。

〔問5〕 右の図において、 $\triangle ABC$ は正三角形である。

点Pは辺BC上にあり、 $BP:PC = \sqrt{3}:1$ である。

解答欄に示した図をもとにして、点Pを定規とコンパスを用いて作図によって求め、点Pの位置を示す文字Pも書け。

ただし、作図に用いた線は消さないでおくこと。



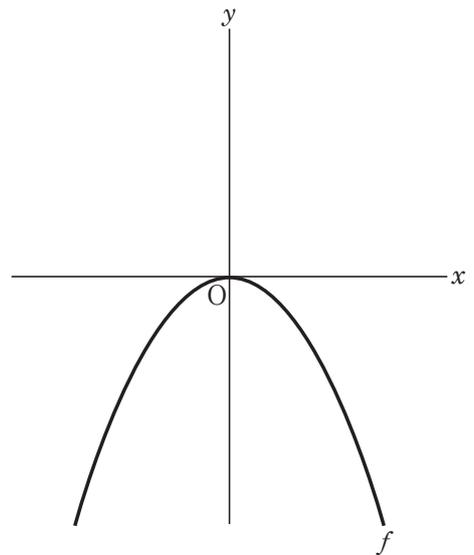
2

右の図1で、点Oは原点、曲線fは関数 $y = -\frac{1}{2}x^2$ のグラフを表している。

原点から点(1, 0)までの距離、および原点から点(0, 1)までの距離をそれぞれ1cmとする。

次の各問に答えよ。

図1



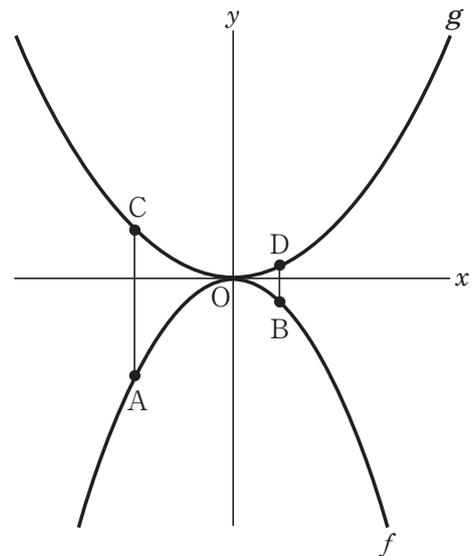
〔問1〕 関数 $y = -\frac{1}{2}x^2$ について、

x の変域が $-2a \leq x \leq a$ ($a > 0$) であるとき、

y の変域を不等号と a を用いて $\leq y \leq$ で表せ。

〔問2〕 右の図2は図1において、曲線 f 上にあり
 x 座標が $-2a$, a ($a > 0$) である点をそれぞれ
 A, B とし、曲線 g は関数 $y = px^2$ ($p > 0$)のグラフで、
 曲線 g 上にあり x 座標が $-2a$, a である点を
 それぞれ C, D とし、点 A と点 C , 点 B と点 D を
 それぞれ結んだ場合を表している。

図2



- (1) $a = \frac{1}{3}$, $p = \frac{1}{4}$ のとき、2点 A, B を通る直線と2点 C, D を通る直線との交点を E ,
 曲線 g 上にあり、 x 座標が t で点 C と異なる点を F とし、点 A と点 F , 点 E と点 F を
 それぞれ結んだ場合を考える。

$\triangle AEC$ の面積と $\triangle AEF$ の面積が等しくなるとき、 t の値を求めよ。

ただし、答えだけでなく、答えを求める過程が分かるように、途中の式や計算なども書け。

- (2) 点 O と点 A , 点 O と点 B , 点 O と点 C , 点 O と点 D をそれぞれ結んだ場合を考える。

$\triangle OAC$, $\triangle OBD$ の面積をそれぞれ $S \text{ cm}^2$, $T \text{ cm}^2$ とするとき、 $S+T$ を a, p を用いて表せ。

また、 a, p がともに自然数のとき、 $S+T$ の値が自然数になるもののうち、最も小さい値
 を求めよ。

3

右の図1で、 $\triangle ABC$ は鋭角三角形である。

図1

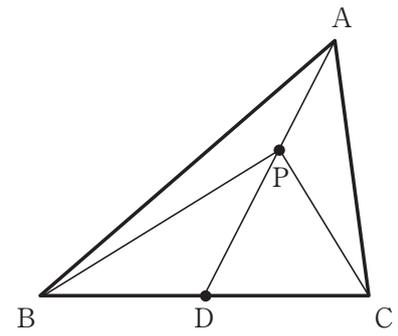
辺 BC の中点を D とする。

頂点 A と点 D を結ぶ。

点 P は線分 AD 上にある点で、頂点 A と点 D の
いずれにも一致しない。

頂点 B と点 P 、頂点 C と点 P をそれぞれ結ぶ。

次の各問に答えよ。

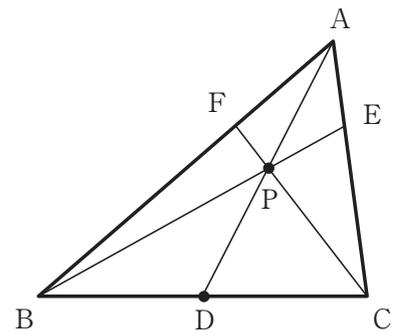


[問1] 図1において、 $\angle BPC = 90^\circ$ 、 $\angle PDC = 78^\circ$ のとき、 $\angle APB$ の大きさは何度か。

〔問2〕 右の図2は、図1において、

線分BPをPの方向に延ばした直線と辺ACとの交点をE、線分CPをPの方向に延ばした直線と辺ABとの交点をFとした場合を表している。

図2



- (1) 点Fを通り、線分ADに平行な直線を引き、線分BP、線分BDとの交点をそれぞれH、Iとした場合を考える。

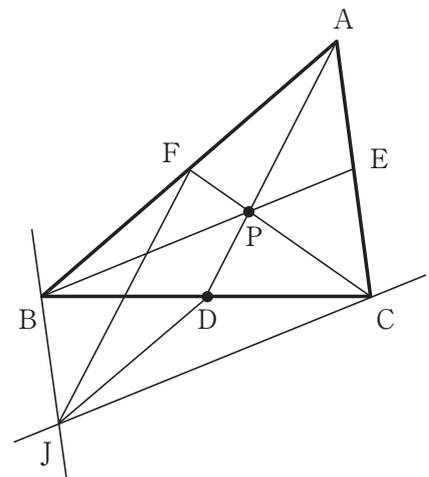
BF : FA = 2 : 1 のとき、HI : AD を最も簡単な整数の比で表せ。

- (2) 右の図3は、図2において、

頂点Bを通り、辺ACに平行に引いた直線と、頂点Cを通り、辺BEに平行に引いた直線との交点をJとし、点Dと点J、点Fと点Jをそれぞれ結んだ場合を表している。

点E、点Fがそれぞれ辺AC、辺ABの midpoint であるとき、四角形AFJDは平行四辺形であることを証明せよ。

図3

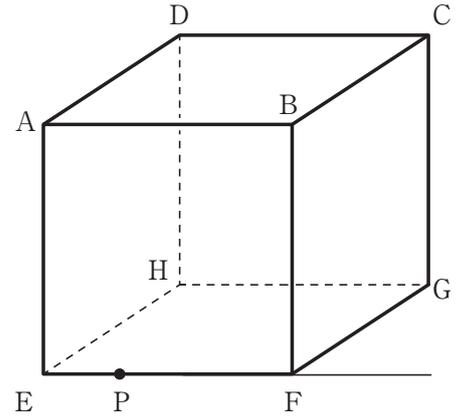


4 右の図1に示した立体 ABCD-EFGH は、1辺の長さが 8 cm の立方体である。

辺 EF および線分 EF を F の方向に延ばした直線上にある点 P とする。

次の各問に答えよ。

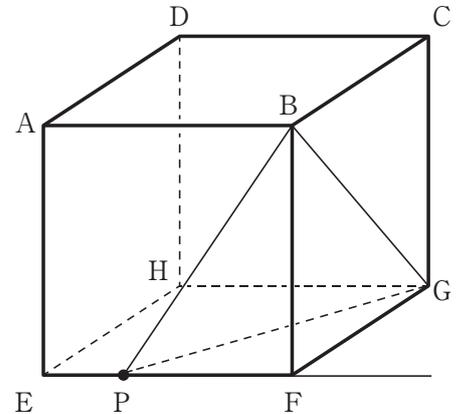
図1



〔問1〕 右の図2は、図1において、

点 P と頂点 B、頂点 B と頂点 G、頂点 G と点 P をそれぞれ結んだ場合を表している。

図2



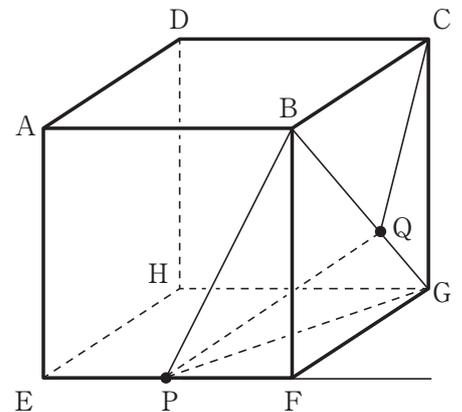
(1) 点 P が辺 EF 上にあり、立体 P-BFG の体積が立方体 ABCD-EFGH の体積の $\frac{1}{10}$ 倍になるとき、EP の長さは何 cm か。

(2) 右の図3は、図2において、EP=4 cm のとき、線分 BG 上にあり、頂点 B、頂点 G のいずれにも一致しない点を Q とし、点 P と点 Q、頂点 C と点 Q をそれぞれ結んだ場合を表している。

PQ+QC の長さが最も短くなる時、 $\triangle PQG$ と $\triangle BQC$ の面積の和は何 cm^2 か。

ただし、答えだけでなく、答えを求める過程が分かるように、図や途中の式などもかけ。

図3



〔問2〕 下の図4は、図1において、 $EP=24\text{ cm}$ のとき、辺 CD 、辺 AE 、辺 FG の中点をそれぞれ L 、 M 、 N とし、辺 CG 上にあり、頂点 C 、頂点 G のいずれにも一致しない点を I とし、点 M と点 N 、点 N と点 P 、点 P と点 M 、点 L と点 M 、点 L と点 N 、点 L と点 P 、点 I と点 M 、点 I と点 L 、点 I と点 P をそれぞれ結んだ場合を表している。

立体 $N-LMP$ と立体 $I-LMP$ の体積が等しいとき、 IG の長さは何 cm か。

図4

